

## 漁港・漁場・海岸の施設の設計にかかる相談事例

分類項目	外郭施設－防波堤関係
相談タイトル	カーテン式防波堤における透過率の考え方
相談者	長崎県
相談内容	<p>既存のカーテン式防波堤において、静穏度解析の結果より港内静穏度を確保するために不透過構造にする必要があり、改良工事を検討している。カーテン式防波堤を不透過構造とするためには、①現地盤までカーテン版を設置して不透過構造とする、②波の影響がある水深までカーテン版を設置し不透過構造とする、の2パターンがあると考えている。この際、どちらの考え方を採用すべきか、または、別の考え方の指針などがあれば見解を聞きたい。</p>
相談会の結果（WEB協議：令和6年9月11日実施）	<p>水産技術研究所から以下のアドバイスをを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 現地盤までカーテン版を設置したほうが波の影響を確実に抑えることができる。</li><li>● 波の影響がない水深までカーテン版を設置する方法でもよいと考えるが、周期の長い波が作用するような場合には、カーテン版と現地盤の間から波が入ってくる可能性もある。そのため、波の周期などの波浪条件を踏まえながら検討する必要がある。</li><li>● 設計参考図書に掲載されている波高伝達率はある範囲で適用されるものであり、現地条件に合致した検討をするためには、数値シミュレーション（CADMAS-SURF等）でチェックするとよい設計ができる。数値シミュレーション以外なら水理模型実験による方法もある。</li></ul>

**注意）**本資料は設計相談会の事例を示すダイジェスト版です。実際の協議では箇所名や詳細なデータを挙げたうえで、より具体的な相談を行っています。